

# 糖尿病注意報発令中

●問い合わせ 保健医療課健康支援室  
☎53-2111 (内線2440~2443)

## 尿検査でわかること

～からだからのメッセージ～

平成29年度 村上市特定健診結果から

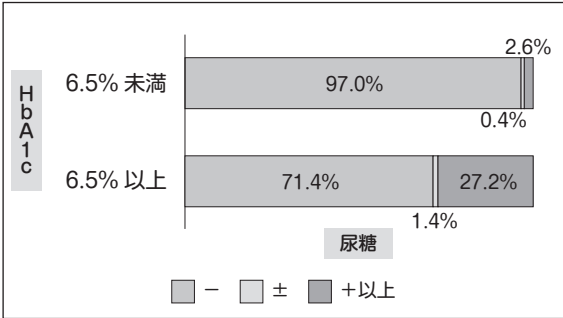


図1 HbA1cと尿糖

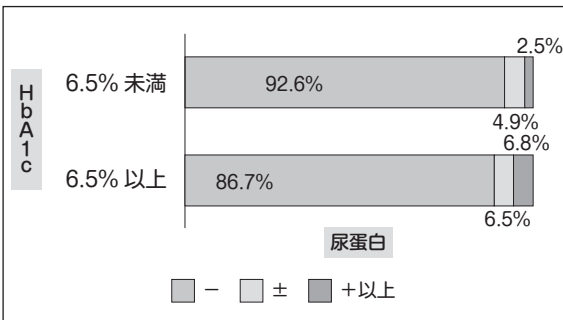


図2 HbA1cと尿蛋白糖

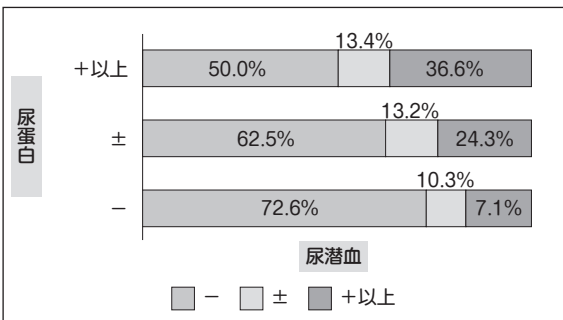


図3 尿蛋白と尿潜血

今回は、尿検査から分かる体の情報をお知らせします。特定健診で行う尿検査は「尿糖・尿蛋白・尿潜血」の3項目です。

### ■尿糖

血液中の糖はいったん腎臓でろ過された後に再吸収されるため、尿の中に糖はほとんど出てきません。ところが血液中の糖濃度が約170mg/dlを超えると再吸収しきれなくなり、尿の中に糖が漏れ出てきます。つまり尿糖が出たというところは、一般的にその時の血糖値は約170mg/dl(高

血糖)を超えていたと推測できます。

平成29年度の健診結果では、HbA1c(ヘモグロビンA1c)が6.5%以上の人は尿糖(+)以上が27.2%と、6.5%未満の方の2.6%の約10倍でした(図1)。慢性的に高血糖の人は、尿糖が出やすい環境にあります。尿糖を出さないためには、普段からの血糖コントロールが大切です。

### ■尿蛋白

尿蛋白も糖尿病と関連があります。高血糖が長く続くと腎臓が高血圧状態となり、すると腎臓の細小血管が動脈硬化を起し、過機能がうまく働かなくなり、本来出てこないはずの尿蛋白が尿に漏れ出てきます。尿蛋白は腎臓の血管が弱っているサインにもなります。腎機能が3分の1以下になるとむくみ、体のだるさなどの症状が出てきます。

平成29年度の健診結果を見ると、HbA1cが6.5%以上の人は尿蛋白(+)以上が6.8%でした(図2)。尿蛋白を出さないためにも、普段の血糖コントロールが大切です。

### ■尿潜血

尿の通り道(腎臓・尿管・膀胱・尿道)のどこかに異常があると尿に血液が出てくる場合があります。膀胱炎などの炎症、尿管結石、がんなどの可能性もあります。

尿蛋白は、他にも慢性腎臓病や腎炎、尿路感染症などが原因で陽性となることがあります。

また、尿蛋白の結果が同じでも、尿潜血が出ていると腎臓病が進展している可能性があります。平成29年度の結果をみると、尿蛋白(+)以上の人のうち、尿潜血も(+)以上の人が36.6%います(図3)。ひとつでも陽性がある人は、一度医療機関を受診しましょう。

このように、尿検査からはさまざまなことが分かります。健診を受けて自分の尿検査の結果を確認してみましょう。